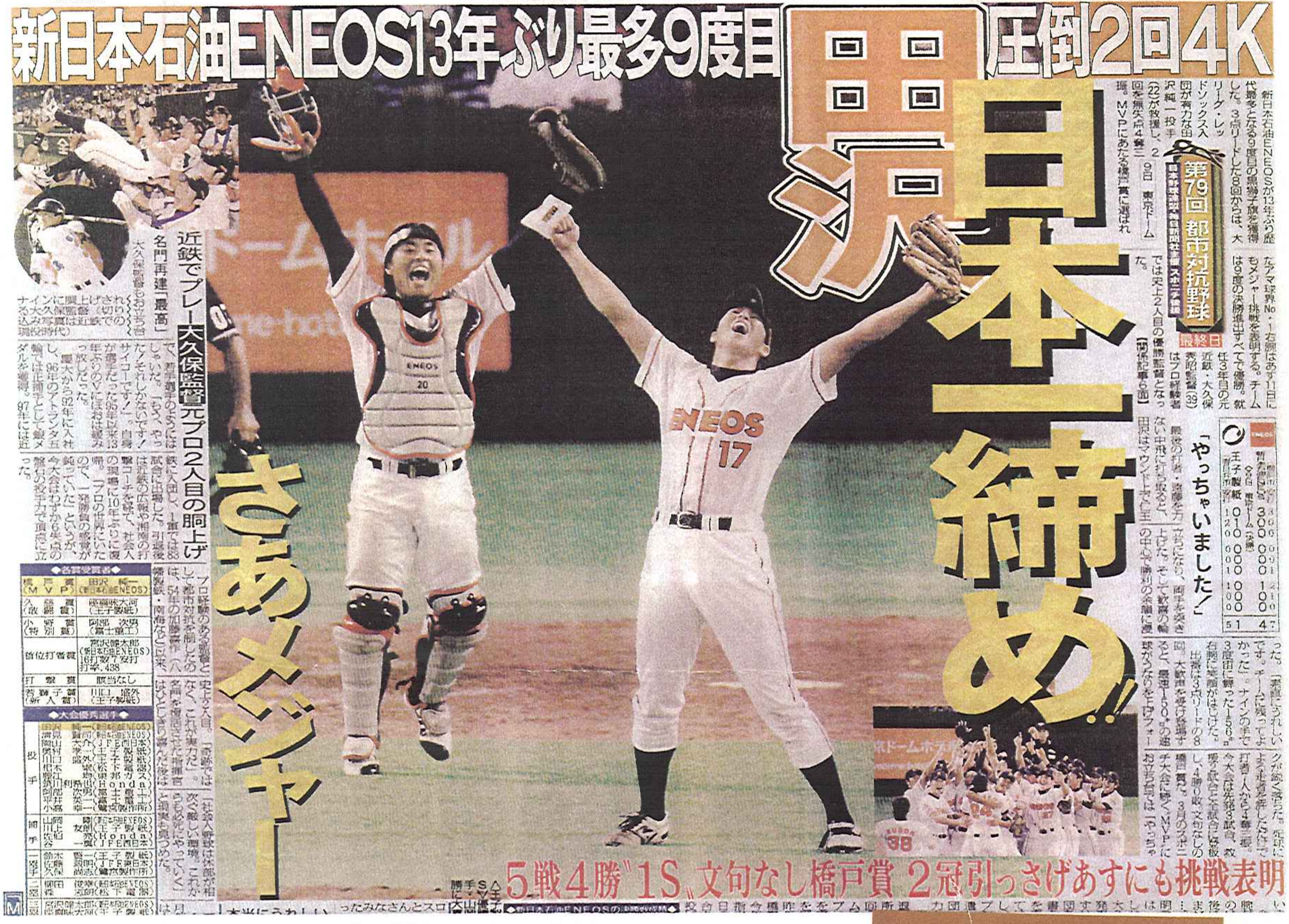
がんばれ!!
たざわ せんぱい



（第3種郵便物認可）　2008年（平成20年）9月10日（水曜日）　スポーツニッポン　11版B（24）

新日本石油ENEOS13年ぶり最多9度目

田沢 圧倒2回4K

日本一締め!!

さあメジャー

5戦4勝"1S"文句なし橋戸賞 2冠引っさげあすにも挑戦表明

第79回 都市対抗野球 最終日

新日本石油ENEOSが13年ぶり歴代最多となる9度目の黒獅子旗を獲得した。3点リードした8回からは、大リーグ・レッドソックス入団が有力な田沢純一投手(22)が救援し、2回を無失点4奪三振。MVPにあたる橋戸賞に選ばれ

なアマ球界No.1右腕はあす11日にもメジャー挑戦を表明する。チームは9度の決勝進出すべてで優勝。就任3年目の元近鉄・大久保秀昭監督(39)はプロ経験者では史上2人目の優勝監督となった。

9日　東京ドーム

【関係記事6面】

新日本石油	300	000	100	4
王子製紙	010	000	000	1

「やっちゃいました！」

最後の打者・斎藤を力ない中飛に打ち取ると、田沢はマウンド上で仁王立ちになり、両手を突き上げた。そして歓喜の輪の中心で勝利の余韻に浸った。「素直にうれしいです。チームに貢献できてよかった」。ナインの手で3度宙に舞った

ナインに胴上げされる大久保監督（切り込み写真は近鉄での現役時代）

大久保監督 元プロ2人目の胴上げ

近鉄でプレー 名門再建「最高」

大久保監督もお立ち台で、若手選手のようにはしゃいだ。「もう、やった！それしかないです！サイコーです！」。自身が選手だった95年以来13年ぶりのVにほおは緩みっ放しだった。

慶大から92年に入社し、96年のアトランタ五輪では正捕手として銀メダルを獲得。97年には近鉄に入団し、1軍では83試合に出場した。引退後は近鉄の広報や阪神の打撃コーチを経て、社会人の現場に10年ぶりに復帰。「プロの世界にいたので、一発勝負の感覚が鈍っていた」というが、今大会はわずか6失点の盤石の投手力で頂点に立った。

プロ経験のある監督として都市対抗を制したのは、54年の加藤喜作（八幡製鉄・南海など）以来、史上2人目。「奇跡ではなく、これが実力だ」。名門を復活させた指揮官はひとしきり喜んだ後は「社会人野球は休部が相次ぐ厳しい環境。これからも必死にやっていく」と現実も見つめた。

◆各賞受賞者◆

橋戸賞（MVP）	田沢純一（新日本石油ENEOS）
久慈賞（敢闘賞）	[illegible]（王子製紙）
小野賞（特別賞）	[illegible]（富士重工）
首位打者賞	宮沢健太郎（新日本石油ENEOS）16打数7安打 打率.438
打撃賞	該当なし
若獅子賞（新人賞）	川口[illegible]（王子製紙）

◆大会優秀選手◆

投手	田沢純一（新日本石油ENEOS） [illegible]
捕手	[illegible]
一塁手	[illegible]
二塁手	[illegible]
三塁手	宮沢健太郎（新日本石油ENEOS） [illegible]

◆田沢純一（たざわ・じゅんいち）1986年（昭61）6月6日、横浜市生まれ。三ツ沢小3年で野球を始め、松本中を経て横浜商大高では1年夏からベンチ入り。2年夏に甲子園出場したが、登板はなかった。05年に新日本石油ENEOSに入社。家族は両親と弟。180センチ、80キロ。右投げ右打ち。

キミも三ツ沢ライオンズに入って

1998年
三ツ沢小学校
卒業！
三ツ沢ライオンズ
出身！！

大リーグを目指そう！！